国語科（現代の国語）　学習指導案

◎◎高等学校

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 日時 | 令和〇年〇月〇日（〇） | | | | 場所 | □□□□ | | |
| クラス | △年△組　（△△人） | | | | 授業者 | ◇◇◇◇ | | |
| 科目名 | 現代の国語 | | | | 単元名 | 「伝わる文章」を書こう | | |
| 使用教材 | 「水の東西」（山崎　正和） | | | | 使用教科書 | ▽▽▽▽▽ | | |
| 生徒観  指導観  教材観 | 論理的文章に対する苦手意識を持つ生徒が多いため、比較的短く読みやすい教材で評論文読解の基礎力定着を図る。また、授業内で学んだ知識・技能を活用して「説明的な文章」と「評論文」との違いを「伝わる文章」というテーマで書く言語活動の中で交流をしながら学びを深めたい。今後、生徒が「評論文」を読む際の基礎となる事項を生徒自らがまとめることで読解力の向上を図るとともに、相手に伝わることを意識した文章を書くことで文章構成力や表現力を磨く。 | | | | | | | |
| 単元の目標 | 1. 実社会において理解したり表現したりするための必要な語句の量を増すとともに、語句や   語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)エ   1. 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要性などを考えて、文章の構   成や展開を工夫することができる。〔思考力，判断力，表現力等〕B(1)イ   1. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。「学びに向かう力，人間性等」 | | | | | | | |
| 単元の評価規準 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| ①実社会において理解したり表現したりするための必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。　((1)エ) | | ①読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要性などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) | | | | ①レポートを書くことを通して、自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。 | |
| 単元の  言語活動 | 本単元の教材で学んだ内容を基に、「説明的な文章」と「評論文（論説文）」の違いについて比較しながら、相手に「伝わる文章」を論述する。（関連：〔思考力，判断力，表現力等〕B(2)イ） | | | | | | | |
| 指導と評価の計画  （全５時間） | 時 | 主たる学習活動 | | 評価する内容 | | | | 評価方法 |
| １ | ○単元の目標確認  ○本文の構成理解 | | ［知識・技能］① | | | | 「記述の点検」ワークシート |
| ２ | ○第1、２段落の読解 | | ［知識・技能］① | | | | 「記述の確認」ノート |
| ３ | ○第３、４段落の読解 | | ［知識・技能］① | | | | 「記述の確認」ノート |
| ４ | ○本文のまとめ  ○レポートの作成 | | ［思考・判断・表現］① | | | | 「記述の分析」レポート |
| ５ | ○レポートの清書  ○単元の振り返り | | ［思考・判断・表現］①  ［主体的に学習に取り組む態度］① | | | | 「記述の分析」レポート  振り返りシート |

学習指導案(４時間目/全５時間)

本時の目標：ア．他者に伝わりやすい文章作りを意識し、「説明的な文章」と「評論文（論説文）」の違いについて、本文で学んだ知識を活用しレポートを書くことができる。

〔思考力，判断力，表現力等〕B(1)イ

言語活動：本単元の教材で学んだ内容を基に、「説明的な文章」と「評論文（論説文）」の違いについて比較しながら、相手に「伝わる文章」を論述する。

本時の展開：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価 |
| 導入  ５分 | □本時の目標を確認する。  □前時までの学習内容を確認する。 | ・伝わりやすい文章を書くことが目標であり、そのための言語活動として本時ではレポートを書くことを確認する。  ・教科書とノートを見直し、本文の内容と構成を確認する。 | ・ペアで確認させる。 |
| 展開①  １０分 | □本文の内容をまとめる。 | ・日本と西洋を比較しながら、日本文化、日本人について筆者の考えを述べているという本文の構成を理解する。 | ・「二項対立」が分かりやすい板書になるよう工夫する。 |
| 展開②  ３０分 | ◎レポートを書く。  □ペアで交流する。 | ・本文の内容（特に「二項対立」）を確認しつつ、レポートの例を参考にしてレポートを書く。  ・他者のレポートを読み、改善点などを話し合い、相手に伝わる書き方を考察する。 | 【本時の目標アに対する評価規準と評価方法】  規準：他者に伝わりやすい文章作りを意識し、「説明的な文章」と「評論文（論説文）」の違いについて、本文で学んだ知識を活用しレポートを書くことができている。  方法：「記述の分析」（レポート、机間指導）  〔状況Cに対する手立て〕  ・レポートの例に沿って書くよう助言する。  ・ペアでレポートを交換して互いに読み合わせる。 |
| まとめ  ５分 | □本時の内容をまとめる。  □次回の内容を確認する。 | ・本時の目標を再確認し、自分の書いたレポートを見直す。  ・次回はレポートの清書と、グループ交流を行うことを確認する。 | ・下書きが終わっていない生徒に対して、次回で完成させるという見通しをもって取り組むよう注意を促す。 |